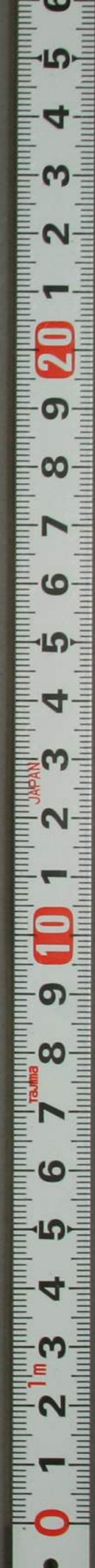




現在七面



特別  
子 12  
3643  
16(18)



現在七面

日并ニ  
 ツヨク  
 支世尊の教法ハ五時ハ教み配する  
 檀室ニ教みあり去程ハ滅後の  
 弘経も正像末ニ次第して今後立  
 百歳ノ時あれハ時撰みけし妙経  
 を弘めり國土安んずるも免さるを  
 一々甲斐及身延志山ふりたり



見在二面



寂實を人の扉の内あき讀誦法經  
の聲終も一心三觀の窓の前あひ第  
天は月まとうあり尾上の内表き  
法をもつ皆法の夢なるはや海  
津形ろひきも無河流深の法  
声あく鶴の山を余はあはる巻  
法の花表ひもやあきる月ふ立波あ

上の字雲も晴ぬきふの月そごあ  
あはく我法無終りのあき  
誦誦禮讚を怠る子あきあよ  
あはな女性のあきも痛で候今  
も又あひてあきあきと思ひ  
法の教へを身あうもてまよの道あ  
あまかあ秘の靈地ああ漢去あてあ

見三三

明の洞和銅あてハ我立極と候トモ  
おふもいりてまゆりなき極又大白飯本并  
の河風お浪の立居もおのほくろ随縁  
生かを顯きり谷の戸出る賞も法  
を唱ふる花の技ウ裂てもんよ牙延  
ろ山のこもたおしくまをむい入て消  
ぬすは是もあまの光りかき思入ハ我つ

くりや一羅科をかくこそ清め物も  
しと信心ハ縁増よろ有難き山  
うめくあやもあけ山ハ花より  
卵ハ赤い人もなき一帯りあるふそもや  
女性のあやまう御経痛の折こふ  
あまをさまひ花水と佛よ極きぬあ  
おこころ成入まてま海びそ

けいあり下り小僧者もあがりくみ給に也  
 法よ逢事。盲亀の字本優曇花の  
 花もちえるる地して。信ひの源の露  
 花家おしも縁を結ひ信の世に園  
 ちてひふらつら女松の戸の時暮あ  
 ゆをさとしひり上人の結縁をなひ  
 斗あり 欠奇持成信心は此法花

経をきりちぬきハ若有國法者立不  
 成佛と疑給ひて。二葉尊提悪人女  
 ちなま成仏まじり疑ひあり  
 極ち好交あり難や 上言 ちなまも  
 ままきりぬく法を院またを山ま  
 いそ髪は結ひまじりあり見おし  
 けも女の仏とある溜が志あり



三ノリやうやがたうき者のほまじ  
いつの時とうね山や神よ海の浪翻て  
作り重罪科を悔の八千度身成  
かちも佛の法はる言の葉え恨り  
どの見教きり  
仏七十余歳まで始て後をばひふ  
よる一味れ法の雨ひや

海ひふ敗種の一葉園提も皆同  
悟りをばばふ文珠の教を龍女  
須臾法をえてげ母あうれ男を推  
ちの悟乃古里お立ゆるあほ換や錦の  
袂成流ウヨウ洪妙典の理り成さく  
糸巻心助よあきぎてきもち終や  
か新ろさの中や相はるも隔なれ法

乃水とゆゑに結ひあふる昔に三誓  
 火燭とすくまぬまゝに 持も三誓  
 の昔にこそ悔無からむと宣ふ法に  
 夢の具神のうりふせと成るや今も  
 何をうけむるに我ハ七面地又誓  
 月あまの扱きぬ年へたふ蛇身あり  
 乃六懺悔乃其為ふぢの姿成らんせ

後 神あはれ報恩ふる一母成  
 顯えんと夕風をたもて 甲上進  
 雲乃行傍も早死ぬれ所 かなん下  
 か 神の福光して 音おま  
 ぶれて 夫みたりく 明あかり  
 あまのちも 是法の力をとらふと  
 まはしひこまの 讀誦をたがへてま



活りく 素のまゝ今迄しく  
ぎふゆるゆるみ人となりの顔の色  
吟 蛇とつづく日月の如く成  
眼と死に上人のまを望と染まてもあ  
く身家くとはまをい 悲愧懺悔の  
笑を破るまを望るを善くして 贍作  
してうを 活きりきれ 其時上人

御経城をよ 於 須臾頃 復成 正覺  
とたつ 妙小唱 入 経 へ 忽 蛇 身 とな 変ト  
活か ち ち ま も 蛇 身 變 ト つ。如 我 等  
を 異 け 身 と あ ま 入 を 小 母 宗 雲 々 天 家  
びき 四 指 の 花 かり 虚空 小 音 樂 中  
きく くら 経 ぐ 報 よ ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
舞 乃 袂 ち ち 天 香 蕙 して 吹 送 る 松

の月シ期カれル乃ハきキをシ文ノのハ夜ヨすル表ハ  
 月ツキもモ霧キリもモ志シとシ和ワ敵キ中ナカ悔クハりリ上ノてテ志シをシ  
 むムやヤ 謹キン上ノ 再サ拜ハ 乾ケン鳥トのノ山ノ  
 いうイふフすスとトきキはハ月ツキなナまマさサババ 下カりリてテ  
 のノほホもモ世セ所シヨ思シまマさサまマ 妙ミョウ姉シ 妙ミョウ経キョウ  
 信シン受ジュのノ功ク力リキとト三サン身シ氣キ満マンるル妙ミョウ行ギョウとト  
 うウきキてテ和ワ光クワウ同ドウ塵ジン結ケツ縁エンのノ姿サ或ワ顯ケントト

雲ウン泣ナク示シ現ゲンしてシテ妙ミョウ妙ミョウ山サンのノ鉄テツ守シュとト成ナるル火カ  
 難ナン水スイ難ナンりリうウくクのノ福フクをヲのノそソとト七シチ福フク則ゾク  
 生シヤウるル孫ソンをヲひヒをヲ入ニてテ志シをヲあアまマしシ妙ミョウ童ドウてテ荒クワウ  
 生シヤウをヲ度タクくク海カイ度タクきキんンとト約ヤク諾ダクうウてテ中ナカ  
 つツ行ギョウ侍シヤウもモ白ハクをヲよヨまマらラまマりリまマりリまマりリてテ處トコロ  
 空クウ子シあアらラせセ給キひヒまマりリ

右之本者觀世太夫章句真本令版行畢

正德六丙申歲弥生尚亦天保十一庚子歲孟春改正再版

示來荏苒數十年一星霜ヲ經ルニ從ヒ改正増補ヲ加ヘレモ印刷

附セザレバ之ノ世ニ公ニスル能ハサルヲ悲シ今版

宮内省御用達觀世清孝ノ校合ヲ以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十一年十月 出版御届 内百十番

同 十二年三月 發兌 外六十二番

明治十二年九月 出版御届 別冊 二十八番

同 十三年三月 發兌

明治十四年四月 出版御届

同 年 六月 發兌

同十六年十月廿五日別冊御届 出版人

京都府平民

繪 常之



上京區第三十組二條通御幸町西八

丁子屋町北側

